

25日 水曜

I サムエル

2:12 さて、エリの息子たちはよこしまな者たちで、【主】を知らなかった。

2:13 民に関わる祭司の定めについてもそうであった。だれかが、いけにえを献げていると、まだ肉を煮ている間に、祭司の子弟が三又の肉刺しを手にしてやって来て、

2:14 これを大鍋や、釜、大釜、鍋に突き入れ、肉刺しで取り上げたものをみな、祭司が自分のものとして取っていた。このようなことが、シロで、そこに来るイスラエルのすべての人に対してなされていた。

2:15 そのうえ、脂肪が焼かれる前に祭司の子弟がやって来て、いけにえを献げる人に「祭司に焼くための肉を渡しなさい。祭司は煮た肉をあなたから受け取らない。生の肉だけだ」と言うので、

2:16 人が「まず脂肪をすっかり焼いて、好きなだけお取りください」と言うと、祭司の子弟は、「いや、今渡すのだ。でなければ、私は力づくで取る」と言った。

2:17 このように、子弟たちの罪は、【主】の前で非常に大きかった。この人たちは【主】へのささげ物を侮ったのである。

2:18 さてサムエルは、亜麻布のエポデを身にまとった幼いしもべとして、【主】の前に仕えていた。

2:19 彼の母は彼のために小さな上着を作り、毎年、夫とともに年ごとのいけにえを献げに上って行くとき、それを持って行った。

2:20 エリは、エルカナとその妻を祝福して、「【主】にゆだねられた子の代わりとして、【主】が、この妻によって、あなたに子孫を与えてくださいますように」と言い、彼らは



自分の住まいに帰るのであった。

2:21 【主】はハンナを顧み、彼女は身ごもって、三人の息子と二人の娘を産んだ。少年サムエルは【主】のみもとで成長した。

エリの息子たちは信仰者の家に育ったにもかかわらず、「主を知らず、…祭司の定めについても」知りませんでした。もちろん神が主であることや、その存在に関する知識はあったでしょうが、彼らは神様がどういう方であるかという体験がなかったと言えるでしょう。また神は聖なる方で生きておられるという感覚が欠如していたのでしょうか。また「定め」についても知らなかったとありますから、正しい必要な聖書知識がなかったのでしょうか。

以上が彼らの身勝手な行動を生みました。次世代への信仰教育は偏差値や一般的な躰（しつけ）よりも優先されなければなりません。そうでないとその子が将来主からの祝福を受けられなくなってしまうからです。

一方、ハンナとエリカナは愛する一人息子であるサムエルを、信仰によって育てました。両親は主への誓いを忠実に果たし、寂しさを心配もあつたでしょうが、サムエルを祭司のもとに預けました。両親は主へのささげものと、息子への上着の差し入れを欠かさず、少年サムエルは両親の信仰と愛によって成長したのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

